

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

Bank of Ayudhya Public Company Limited（証券コード：－）

【新規】

外貨建長期発行体格付	A
格付の見通し	安定的

■ 格付事由

- 「アユタヤ銀行」の名で知られるタイの大手商業銀行。13 年に三菱 UFJ フィナンシャル・グループ (MUFG) の中核である三菱東京 UFJ 銀行（現・三菱 UFJ 銀行）の連結子会社となった。MUFG による関与度およびグループにおける経営的重要度などを踏まえ、MUFG のグループ信用力「AA」相当を基点に評価した当行の信用力を「A+」相当とみている。ただし、所在国の金融経済情勢などの影響を受けやすい銀行業の特性を勘案し、発行体格付はタイのソブリン格付（外貨建長期発行体格付：A/安定的）の制約を受けている。
- MUFG による関与度は相応に強い。当行はタイ証券取引所に株式を上場しているほか、大手財閥の Ratanarak Group が株式保有などを通じ経営に一定の関与をしているといった面はあるものの、MUFG が当行の議決権の 76.88%を保有し、かつ会長・頭取を含め取締役の過半数を指名している。また、グループにおける経営的重要度は高い。三菱東京 UFJ 銀行が 15 年にバンコク支店を当行に統合して以来 MUFG はタイに銀行支店を置いておらず、当行は日系企業取引を含めタイにおける MUFG の商業銀行ビジネスを一手に担っている。MUFG がアジアを「第二のマザーマーケット」と位置付ける中、当行はその中心的な存在と言える。当期純利益が円換算後で 1,000 億円を超えるなど業績面におけるグループへの貢献度も大きい。
- 25 年 6 月末の連結総資産は 2.6 兆タイバーツ（11.5 兆円）と、資産規模は同国の銀行で第 5 位。自動車分野などを中心に個人向け貸出で高いシェアを持つほか、中小企業・大企業向けでも相応のプレゼンスを有している。MUFG が有していた顧客基盤が大企業向け取引の素地となっている。インオーガニック投資などを通じた国外展開にも力を入れており、マイクロファイナンスに強みを持つカンボジアの銀行やベトナム、インドネシア、フィリピンのノンバンク大手などを連結子会社としている。
- 収益力は相応の水準にある。国外を含め個人向けビジネスを得意としているため与信費用の水準は高めで推移しているものの、純金利マージンが比較的高いことなどから一定の当期純利益を安定的に確保している。ただし、タイにおける過剰な家計債務などを背景に近年の業績は伸び悩んでいる。連結税引前利益は、MUFG の連結子会社となった 13 年の約 160 億タイバーツから 19 年の約 400 億タイバーツまで順調に拡大していたが、コロナ禍の影響を受けた 20 年に低下し、その後回復したものの 400 億タイバーツ前後で推移している。個人向けビジネスの環境が好転するには時間を要するとみられる中、大企業向けビジネスの強化や非金利収益の拡大といった取り組みが業績面の成果につながるか注目していく。
- 財務の健全性は高い。連結不良債権比率は 3%台前半まで上昇しており、家計債務問題などを踏まえると与信費用の動向に注意する必要があるものの、連結 Tier1 比率は 25 年 6 月末で 18%と高く十分なバッファーを備えている。Tier1 資本の大宗が資本金や利益剰余金などであり資本の質も高い。また、資金流動性にも問題はみられない。預貸率は 100%をやや上回るものの過去に比べれば抑制されている。流動性カバレッジ比率は高い水準で推移しており、三菱 UFJ 銀行からは安定的な資金調達が期待できる。

（担当）宮尾 知浩・古賀 一平

■格付対象

発行体：Bank of Ayudhya Public Company Limited（アユタヤ銀行）

【新規】

対象	格付	見通し
外貨建長期発行体格付	A	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2025 年 10 月 16 日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：古賀 一平
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014 年 1 月 6 日）として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024 年 10 月 1 日）、「銀行等」（2021 年 10 月 1 日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2022 年 9 月 1 日）として掲載している。
- 格付関係者：
（発行体・債務者等） Bank of Ayudhya Public Company Limited
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - 格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
- JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO 登録状況

JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第 1 号

〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8 時事通信ビル